

令和6年産

# 仙台麦作情報

2024. 4. 12 第5号

宮城県仙台農業改良普及センター

Tel 022-275-8410 Fax 022-275-0296

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk>

## 今後の栽培管理のポイント



- (1) ほ場排水の徹底 (2) 適期追肥の実施 (3) 赤かび病の適期防除 (4) 適期刈取

### 1 気象経過 (10月第1半旬～4月第2半旬、仙台アメダス)

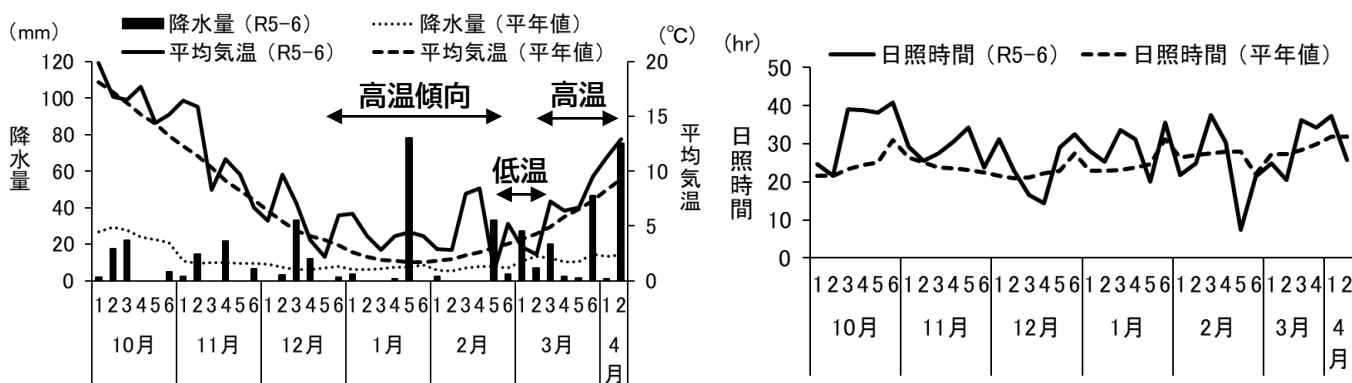


図1 半旬平均気温と降水量の推移

図2 半旬日照時間の推移

- ・ 3月の平均気温は、上旬は平年より低く、中下旬は平年より高く推移しました。
- ・ 3月上旬は雪や雨となる日が多く、降水量は多く推移しました。

### 2 大麦生育調査結果 (4月10日現在)

#### ・ 仙台市 (シュンライ、ホワイトファイバー)

シュンライの幼穂長は 3.7 cm、ホワイトファイバーの幼穂長は 4.3 cm で、いずれも減数分裂期 (シュンライ: 4月8日、ホワイトファイバー: 4月6日) を迎えており、ホワイトファイバーは昨年に比べて早い生育となっています。シュンライも昨年よりは遅いものの、平年より早い生育です。

#### ・ 大和町 (ホワイトファイバー)

幼穂長は 2.5cm で、間もなく減数分裂期を迎えます。昨年よりは遅いものの、平年よりは早いと推測されます。

表1 生育調査ほにおける生育ステージ比較

品種	ほ場	播種日		減数分裂期		出穂期予想		開花期予想
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
シュンライ	仙台市 宮城野区	10月5日	10月16日	4月8日	4月7日	(4月18日)	4月12日	(4月25日)
ホワイト ファイバー	仙台市 宮城野区	10月5日	10月15日	4月6日	4月9日	(4月16日)	4月14日	(4月25日)
	大和町 落合	10月23日	10月26日	(4月14日)	4月10日	(4月21日)	4月18日	(5月1日)

※ ( ) 内の日付は普及に移す技術第 91 号参考資料「麦類の生育ステージ予測シート」を参照して作成。

表2 生育調査ほにおける生育調査結果（令和6年4月10日調査）

品種	ほ場	条間(cm)	草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			幼穂長(cm)		
			本年	平年比(%)	前年比(%)	本年	平年比(%)	前年比(%)	本年	平年差	前年差
シュンライ	仙台市 宮城野区	24.4	51.5	115.6	85.7	559	71.1	125.7	3.7	+0.5	-0.9
ホワイト ファイバー	仙台市 宮城野区	21.6	42.8	112.1	80.6	471	69.9	95.9	4.3	+1.4	+0.6
	大和町 落合	34.2	41.2	—	92.2	1,527	—	392.6	2.5	—	-0.8



シュンライ(仙台市)



ホワイトファイバー(仙台市)



ホワイトファイバー(大和町)

### 3 今後の栽培管理

#### ①排水状況の確認

- ・麦類は節間伸長期から登熟期にかけて、湿害の影響を受けやすくなります。降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要です。

「暗きよの再点検（閉じていないか）」「明きよの手直し」を行いましょう。

【節間伸長期～出穂期】に湿害が及ぼす影響→弱小分けつの枯死、穂数の減少、穂の縮小化

## ②適期追肥の実施

- ・大麦：4/15～4/20頃には出穂を迎えるほ場が多いと考えられます。出穂期以降の追肥は硬質麦になるおそれがあるので控えましょう。
- ・小麦：生育ステージは平年に比べて早い傾向にあります。減数分裂期と穂揃期を確認して追肥しましょう。

表3 追肥の目安

追肥の種類 (生育ステージ)		幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長3cm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	3月上～中旬	4月上～中旬	4月中～下旬
	10a当たり 施用量	窒素成分2.5kg (硫安12kg)	窒素成分2.5kg (硫安12kg)	硬質麦防止のため 実施しない
小麦	時期	3月下旬～4月上旬	4月下旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分2.5kg (硫安12kg)	窒素成分5kg (硫安25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)

※時期はおおよその目安であり、**実際には現地ほ場の幼穂長を確認し、追肥時期を判断**しましょう。  
 ※大豆後のほ場では、生育旺盛の場合を除き、規定量の追肥を行っても問題ありません。

### ○減数分裂期の追肥（大麦、小麦）

- ・効果：1穂粒数の増加、登熟の向上
- ・減数分裂期に追肥を実施しないと、細麦化するおそれがあります。減数分裂期後の窒素供給量が減少し、1粒当たりの光合成産物の分配量が少なくなるためです。
- ・大麦では、追肥時期が遅れると硬質麦の発生原因となるため、幼穂長や止葉葉耳間長を観察し、適期に追肥を実施しましょう。
- ・「ホワイトファイバー」はもち性大麦であり、高いβ-グルカン含有率が必要です。β-グルカン含有率の低下を避けるため、減数分裂期の追肥を必ず実施しましょう。

### \* 止葉葉耳間長による減数分裂期の推定について

- ・大麦（シュンライ、ホワイトファイバー、ミノリムギなど）  
→ほ場の**2割程度**の茎が止葉葉耳間長**±0mm**に達したときが**減数分裂期**
- ・小麦（シラネコムギなど）  
→ほ場の**4～5割程度**の茎が止葉葉耳間長**±0mm**に達したときが**減数分裂期**

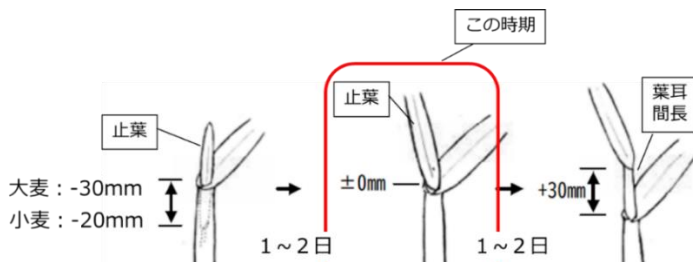


図3 止葉葉耳間長の形態的推移（普及に移す技術第81、83号参照）

### ○穂揃期追肥（小麦）

- ・効果：千粒重、容積重、子実たんぱく質含有率の向上
- ・小麦では、高いタンパク質含有率が求められます。**品質を確保するため、追肥は幼穂形成期 + 減数分裂期 + 穂揃期の3回を基本とします。**

### ③赤かび病の適期防除～2回防除が基本！～

今作は気温が平年に比べて高いため**生育ステージが早い傾向**です！  
開花期の適期防除を逃さないように麦の生育ステージを確認しましょう！

- ・令和5年に国内産小麦の一部から食品衛生法の基準値を超える赤かび毒が検出され、出荷停止及び回収される事案がありました。原因として、適期防除ができていなかったこと、水分含有率が高い収穫物が一斉に収穫され乾燥調製に日数を要したこと等が挙げられています。
- ・赤かび病は人畜に有害なかび毒を産生するため、農産物検査では食用麦の赤かび粒混入限度が0.0%と厳しくなっています。表1の開花期予想を参考に予防防除を徹底し、発生防止に努めましょう。
- ・**ほ場の土壤水分が高いと、発生が助長されます。**排水対策を徹底しましょう。

防除時期… **1回目（重要！）：開花始期～開花期**、2回目：1回目から7～10日後

※降雨が続く場合は、3回防除を行います（3回目：2回目から7～10日後）

- ・今後も気温が高く推移し開花期が予測日より早くなる可能性があるため、**実際に麦の生育を確認して防除を行いましょ**う。

### ④適期刈取

- ・今後も気温が高い日が続く、刈取適期も例年に比べて早くなることが予想されるので、麦の生育ステージを確認して準備しましょう。
- ・成熟期及び刈取り適期の目安→**成熟期の目安：出穂期から40～45日後**
- ・麦の収穫は収量や品質面を考慮し、早刈りや刈遅れのしないよう麦の生育状況に合わせて行いましょう。そのため実際にほ場で麦の状態を確認して、適期に刈取りを行いましょう。

### ○1か月予報（4/13～5/10 仙台管区气象台 4月11日公表）

向こう1か月	暖かい空気に覆われやすく平年と同様に晴れの日が多いとみられ、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。降水量と日照時間はほぼ平年並とみられます。
1週目 4/13～4/19	気温が平年に比べて高くなる確率が80%です。
2週目 4/20～4/26	気温が平年に比べて高くなる確率が70%です。
3～4週目 4/27～5/10	気温が平年に比べて高くなる確率が50%です。